

CKD48 病診連携推進事業キックオフ宣言 第1号 2015年11月発行

那覇市と那覇市医師会共同で記者会見

那覇市では、「健康なは21」プランの重点取組項目のひとつとして、慢性腎臓病対策を掲げ生活習慣病の重症化予防、適正治療・管理に向けた医療連携体制の推進を進めることとしています。

平成27年10月14日、城間幹子市長と真栄田篤彦那覇市医師会長は「那覇市慢性腎臓病(CKD)病診連携事業」キックオフ宣言を共同で行いました。慢性腎臓病(CKD)の発症予防や悪化防止を目的とした病診連携事業は、県

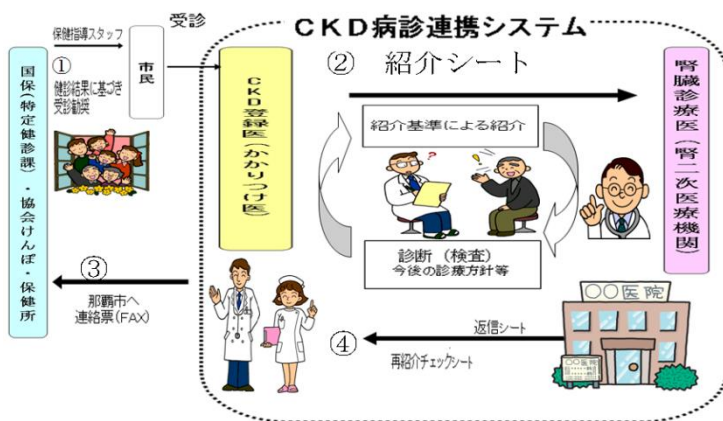


内初の取り組みであり、事業は平成28年4月から本格的に始動予定です。病診連携推進事業では、かかりつけ医である「CKD登録医」と「腎臓を専門に診療する医師」が連携して患者の治療にあたるシステムを構築し、人工透析導入の予防・遅延につなげます。那覇市・那覇市医師会は同事業を「通称CKD48」とネーミングし、「CKD登録医」として当面の目標である48医療機関の登録を目指していきます。

CKDの現状と「かかりつけ医」・「腎臓診療医」の連携システムについて

那覇市国保では、人工透析患者が年々増加傾向にあります。その予備群にあたる「慢性腎臓病(CKD)」に該当する人は、H25年度健診受診者の21.9%、4,183人となっており、特定健診を受けた5人に1人はCKDの可能性がります。慢性腎臓病を悪化させることなく、透析への移行を防止するためには、

那覇市CKD病診連携システムの流れ(イメージ図)



右のイメージ図のような「かかりつけ医(CKD登録医)」と「腎臓診療医」の連携が不可欠です。CKD病診連携システムがうまく機能することで、1人でも多くの透析患者を減らすことにつながることを期待されます。なお、平成27年11月16日(月)、腎専門医やかかりつけ医代表等からなる「CKD病診連携推進会議(第1回)」を開催しました。今後は、市内医療機関を対象として、CKD登録医手続きにかかる説明会を開催します。日時：平成28年1月21日、28日(木)19:30-21:00 場所：那覇医師会館の予定です。